

一般生菌数測定用（迅速タイプ） / TC, Rapid

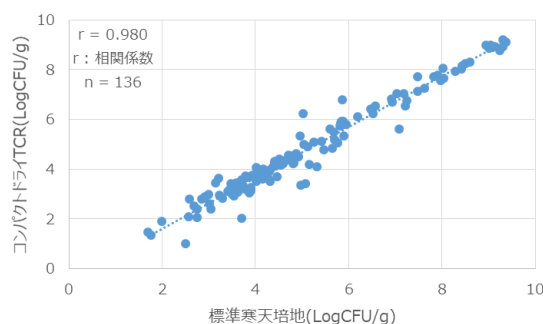
コンパクトドライ™ TCR

従来法（48時間）より早い24時間で

一般生菌数が測定可能

特長

- 標準寒天培地を用いた従来の培養法と高い相関性
- 一般生菌数の発育を24時間で迅速測定可能
- コロニーが発色するので、測定が簡単
- 常温保存可能な簡易培地で培地調製作業を効率化



コンパクトドライTCR(24時間)と標準寒天培地(48時間)の相関図
※136種類の食材において試験し、発育菌数に高い相関性を得た（弊社データ）

CompactDry™
There is always a better way.



AOAC-PTM認証取得
(2022年8月)

製品仕様

培養温度

乳製品を除く全食品：35 ± 1℃
乳製品：35 ± 1℃ もしくは 32 ± 1℃

培養時間

24 ± 2 時間 もしくは 48 ± 3 時間
※従来法に合わせて48時間測定することも可能

測定法

すべてのコロニー（ほとんどは赤色に発色）を計測
※コロニーカウンターグローバルサービス「@BactLAB™」対応予定

迅速

簡易

室温
保存

食品
検査



用途	品名	製品コード	包装	希望納入価格	使用期限
一般生菌数測定用（迅速タイプ）	コンパクトドライ™ TCR	06539	40枚	¥ 8,400	製造後 18ヵ月
		06540	240枚	¥ 36,000	

貯法：1～30℃保管

製造販売元

島津ダイアグノスティクス 株式会社

お問い合わせ先：カスタマーサポート 担当

TEL：03(5846)5707

URL：https://corp.sdc.shimadzu.co.jp/

食品・環境検査の情報Webサイト



COSMOKAI™

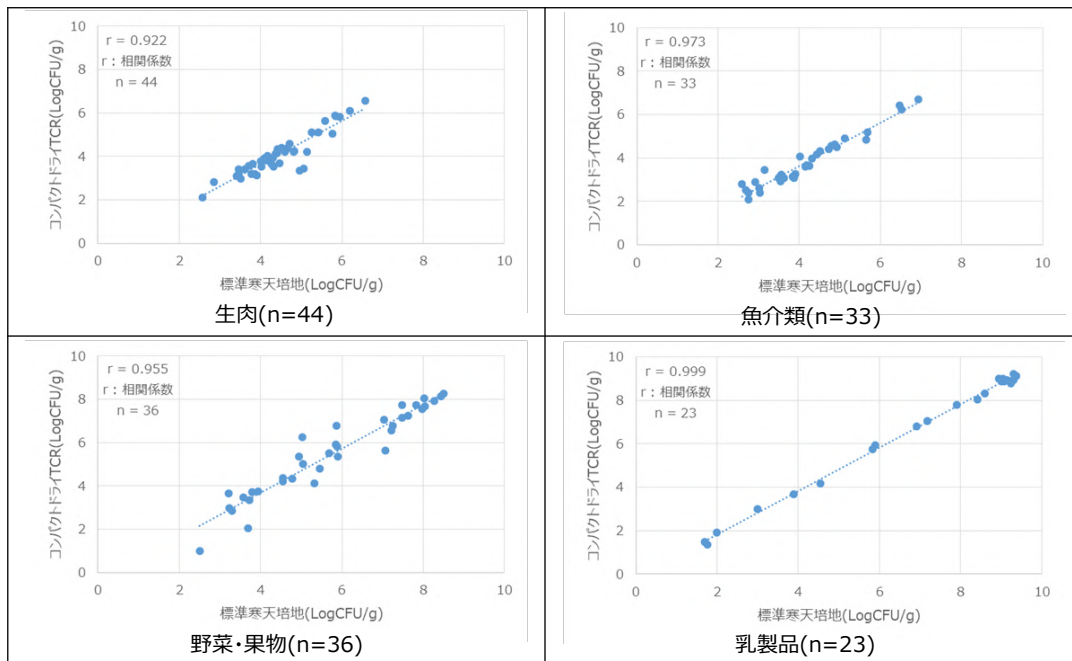
皆様の会員登録を
お待ちしております

https://industrial-diagnostics.biz.sdc.shimadzu.co.jp/



コンパクトドライTCR(24時間)と標準寒天培地(48時間)の相関図

※各食品カテゴリー（全136種類）において試験し、各カテゴリーで発育菌数に高い相関性を得た（弊社データ）



検査手順

	乾式簡易培地法 (コンパクトドライ™ TCR)	混沢培養法 (標準寒天培地)
使用器具	コンパクトドライ™ TCR, 希釈水, ピпет	培地, 希釈水, ピпет, 精製水, フラスコ, シャレ, 電子天秤
培地調製	アルミ包材から開封し、必要に応じて1テスト毎に切り離す	培地粉末を秤量する → 精製水で調製する → 滅菌する → 47~50℃で保温する
一般的な検査手順	<p>10倍希釈試料液 → 1mL → 希釈水 9mL → 100倍試料液</p> <p>1000倍試料液 → 1mL → 希釈水 9mL → 10000倍試料液</p> <p>10000倍試料液 → 1mL → 希釈水 9mL → 空試験(ブランク)</p> <p>1mL滴下すると、自動拡散する → 倒置し、35±1℃, 24±2時間もしくは35±1℃, 48±3時間培養する → すべてのコロニーを計測し、菌数を算出する → 使用後は、滅菌して廃棄する</p>	<p>10倍希釈試料液 → 1mL → 希釈水 9mL → 100倍試料液</p> <p>1000倍試料液 → 1mL → 希釈水 9mL → 10000倍試料液</p> <p>10000倍試料液 → 1mL → 希釈水 9mL → 空試験(ブランク)</p> <p>保温していた培地を15~20mL加え、混沢する → 凝固後、倒置し、35±1℃, 48±3時間培養する → すべてのコロニーを計測し、菌数を算出する → 使用後は、滅菌して廃棄する</p>

「参考情報：食品衛生検査指針2018引用」各希釈段階について2枚の平板使用が通常であるが、日常の自主衛生管理を目的とした検査では、1枚で各操作を正確に実施すれば、大きな過ちはなく、実際にISO17025の原則に従って精度管理された検査室では2段階以上の連続した希釈系列を用いる場合、1希釈1枚の平板使用でも良いと記載されている。

製造販売元

島津ダイアグノスティクス 株式会社

お問い合わせ先：カスタマーサポート 担当 TEL：03(5846)5707

SDC2306